

12th サイエンスカフェ@苫小牧

驚きの生きものはここ北海道にいた

エゾサンショウウオとエゾアカガエルのすごい生き方



日 時：2017年 6月24日（土） 13:00 – 15:00

プレゼンター：岸田 治 博士

（北海道大学苫小牧研究林・准教授）

場 所：苫小牧市美術博物館

お問い合わせ：0144 – 35 – 2550

驚きの生きものはここ北海道にいた ～エゾサンショウウオとエゾアカガエルのすごい生き方～

エゾサンショウウオとエゾアカガエルは北海道を代表する両生類です。2種は雪解けのころに流れがほとんどない水場で繁殖しますが、人家近くの池でも繁殖することもあり、卵や幼生（オタマジャクシ）を目にしたたり、採集したことがある人も多いと思います。身近な2種ですが、実は驚くべき生態の持ち主だということを皆さんはご存知でしょうか？なんと彼らは、幼生（オタマジャクシ）の時期に周囲の餌生物や捕食者の存在に応じて姿かたちを変えてしまう「変身術」の使い手なのです。本講演では、2種の幼生の変身前・返信後の姿を「現物」でご覧いただくとともに、変身の意味について調べた研究の成果を紹介します。身近な生きものの不思議を知りたい方は奮ってご参加ください。



日 時：2017年 6月 24日（時間13:00-15:00）

場 所：苫小牧市美術博物館（TEL 0144-35-2550）

プレゼンター：岸田 治 博士（北海道大学苫小牧研究林・准教授）



～岸田博士の略歴～

北海道室蘭市出身。1995年北海道室蘭栄高等学校卒業。1999年北海道大学水産学部卒業後、勤務していた小樽水族館で「オタマジャクシの変身」を偶然発見した。2002年に「変身の研究」に没頭するため水族館を退職し、北海道大学水産学部の大学院に進学。2006年に学位（水産科学）取得後、2年間京大生態学研究中心にて日本学術振興会特別研究員として従事。2009年北海道大学・天塩研究林・助教、2012年北海道大学・苫小牧研究林・准教授（現職）。主な研究テーマは、動物の食う-食われる関係。両生類の生存戦略を通して、生態系での食う-食われる関係の本質を探っている。

